

ブラックアウト



札幌市医師会
五輪橋マタニティクリニック

真名瀬 賢 吾

平成も今年で終わってしまうようだ。今年がどのような年になるのか、今は想像もつかないが、少なくとも札幌在住の人で、平成30年9月6日のことを忘れていない人はいないと思う。停電と断水と一緒に襲って来た地震のことは忘れられない。当然と思っていたことが一度に否定された辛さを思い知った。いつも、他の県で起こっていることを「大変だろうな。水、食料も大切だが、トイレはどうしているのだろう」と想像していたのが私だ。しかし、実際に他人事と思っていただけの自分を自戒した。改めて自分が災害にあった時、その大変さを思い知らされた。私はマンションに住んでいるのだが、景観のよさが、逆に災害時の弱さに繋がっていることを思い知らされた。また、たまたま自宅で焼き肉をするため購入したカートリッジ式ガスコンロを購入していたことにも感謝した。ネットでは、「屋内で焼き肉をしても煙がたたないガスコンロ」ということで購入してみたものの、実際に焼き肉をしてみると、家の中じゅう煙が充満して、メーカーの宣伝にだまされたと悟り、地下室で眠っていたコンロが大いに活躍した。しかし、カートリッジガスボンベの数が十分でなかったため、足りなくなりそうな時、その直後に電気がついて大変感謝した。また、トイレは排便後に流すのに多量の水が必要なことを知った。以前から、「お風呂の水は流さないでおき、トイレの水が不足した時のために保存しておく」というのが私の希望であったが、お風呂が汚れるということで、毎回流してしまっており、トイレの水のために「大変な思い」をする羽目になった。停電が原因で動かないエレベーターのため、200ℓの水の重さを体で知る羽目となってしまった。

ここで話は一変するが、とにかくクリニックへ向かわないと車を運転する私。交差点で停電のため作動しなくなった信号機に代わりに警察官が車を誘導する中、車の長い列に出合った。何の列かなと思ったら、ガソリンを入れる列だと知った。私はいつもガソリンが少し減るとすぐに満タンにするタイプなので、改めて自分の性格に感謝した次第であった。そして、クリニックに着いて感心させられたのは、病院スタッフの対応の早さだ。改めて、「災害時対策のマニュアル」の大切さを実感した。クリニックは電子カルテなので2日間休診したが、その後は何事もなく、診療にあたることができた。

今は、ただただ、「今年が災害のない年である」ことを願う私です。

多発する災害と防災



上川北部医師会
名寄東病院

浦 山 淳

昨年も大雨、台風、大地震が多発し、日本列島に甚大な被害を及ぼした。これまでとは異次元とも言うべく甚大かつ広範な被害に言葉を失うほどだ。異常気象、地震、台風はこれからも避けて過ごすことができない時代にわれわれは生きていかなければならないようだ。

台風がしばしば襲来する沖縄県では鉄筋コンクリート住宅が結構あるようだが、長年の苦勞から暴風に耐えるようにコンクリートになったのかとも思う。水害も床下浸水から床上浸水、更に2階にまで達するような事例が増えているようにも見える。後片付けは本当に大変だが、いつまた同様の水害に見舞われるか分からない。

せっかく新しく立て替えた貴重な家屋が再び同様の災害に遭わないとも限らない。海岸はいつ津波が来るか分からず、高台も大雨、地震により土砂くずれが懸念される所もある。日本は山地、森林が多いことは航空機に乗るといつも痛感する。人が居住できる平地は海岸に集中している。こうして見ると、どこも安全な場所はないのではと思うのも無理はないかもしれない。

従って、ここから先は全くの独断であり、ご批判は覚悟の上である。海岸あるいは低地、河川のそばでは鉄筋コンクリートの強靱な集合住宅で、できれば3階以上（あるいは2階以上）を居住空間とする。そうすれば堤防崩壊や津波の破壊力からも逃れ得るかもしれない。一戸建て住宅は高台で、しかも土砂崩れのおそれが少ないと客観的に考えられる所に限定する。そうでもしないと何回、再建しても賽の河原になる可能性がある。

東日本大震災の後に海岸に巨大な堤防を建設しているところもあるが、これを全国に推し進めることはできるのだろうか。河川の堤防を強靱化し、かさ上げをあらゆる河川に施行することはできるのか。高齢化社会において社会保障、介護、医療にも多くの予算が必要だ。災害防止のみに全てを注ぐわけにはいかない。また復興のためにもやはり予算が限られてくるかもしれない。効率的に復興予算も投入する必要があると思う。

人間誰も住み慣れた土地あるいは故郷に住みたいなどさまざまかと思う。それを尊重しつつ災害を避けるためには、思い切った発想の転換が必要なのではないか。